



「認定人間中心設計専門家」 2016年度資格認定に関する説明会 2016/11/30

NPO法人 人間中心設計推進機構

人間中心設計専門資格認定センター

HCD-Net認定専門家・スペシャリストの認定者数

専門家	453名
スペシャリスト	159名

2009年度設立～2016年11月現在

計612名 実数570名

(業務変わって資格更新せず、専門家になったなどが差の原因)

今年度は、
第8期 認定専門家
第4期 認定スペシャリスト
の試験です。

アジェンダ

Part **1** 専門資格認定制度とは（伊藤） 3

Part **2** 認定専門家・スペシャリストに求められるコンピタンス（吉武）19

Part **3** 申請書類の書き方（和井田） 40

Part **4** まとめ 73

Part 1

専門資格認定制度とは？

- 認定制度設立の趣旨、ねらい
- 誰のための制度か？
- 何を認定するのか？(コンピタンスマップ)
- どうやって審査するのか？
- 応募～合格発表まで

認定制度設立の趣旨

- (1) 人間中心設計(HCD)活動領域、役割の明確化
- (2) 人間中心設計(HCD)活動の活性化

正式名称

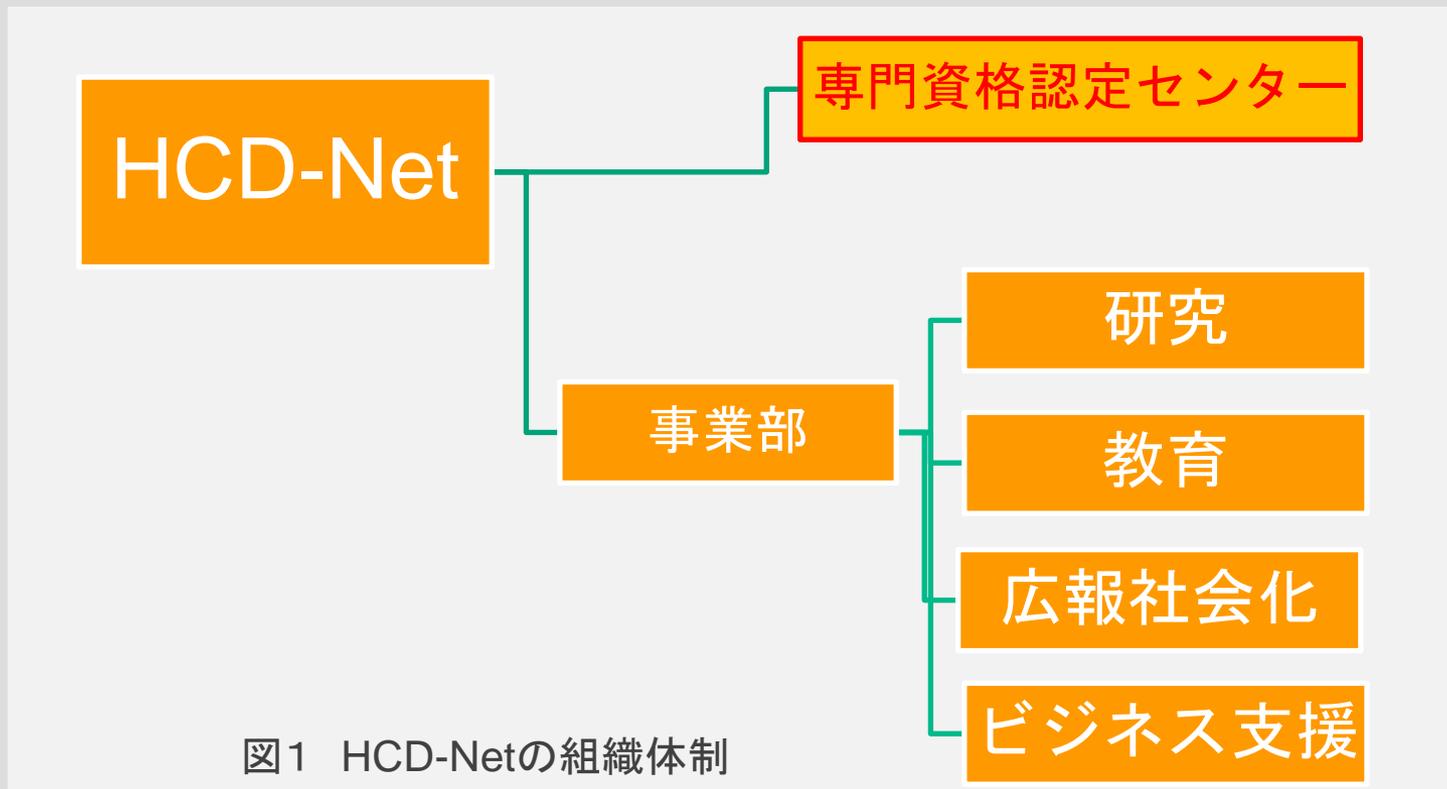
- 正式名称:「特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構認定 人間中心設計専門家」「～人間中心設計スペシャリスト」
- 英語正式名称:「Certified Human Centered Design Professional」
- 「Certified Human Centered Design Specialist」

※特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構 ⇒ HCD-Net

※人間中心設計 ⇒ HCD

認定組織

- 人間中心設計(HCD)専門資格認定センター(2015年設立)にて
認定制度確立・認定実施



認定制度設立の背景

- 魅力的なユーザー体験 (UX) の実現
- 使いやすい商品やシステム、サービスの実現

HCD 専門家が 必要です !

という認識を広めたい

認定制度設立の背景

- 魅力的なユーザー体験 (UX) の実現
- 使いやすい商品やシステム、サービスの実現

HCD 専門家が 必要です !

という認識を広めたい

でも、HCD 専門家の定義がなかった

認定制度設立のねらい

製品・システム・サービス開発における人間中心設計プロセス
を実践できる専門家を認定する仕組みを確立する。

- ✓ 専門家にお任せくださいとアピールできるように
- 専門家に必要とされる能力を明らかにする。
 - ✓ 実践に必要な能力を満たしている人を認定する
- 専門性を高めたい人の活動目標を明らかにする。
 - ✓ 何を学習／実践すれば良いのかを示す
- 関係者に専門家の存在を認知させ活用をうながす。
 - ✓ 専門家の役割や活用メリットを認知させる
 - ✓ 誰に依頼すればよいのかを示す

誰のための制度か？ (for Whom?)

- 専門家Ⅰ … 専門家 認定8期目
 - HCD 専門領域で後進の育成指導ができる人
 - 実業界での実務経験5年以上
 - プロジェクトマネージャー、ウェブプロデューサー、コンサルタント、ユーザビリティ専門家、等
- 専門家Ⅱ … スペシャリスト(准専門家) 認定4期目
 - 要求仕様やUI仕様などの設計活動およびユーザー調査・テストなどの活動が自力でできる人
 - 専任および兼務として HCD活動を遂行できる人で実務経験が浅い人
 - 実業界での実務経験2年以上
 - プランナー、マーケティング・リサーチャー、システム・エンジニア、リクワイヤメント・エンジニア、Webディレクター、UIデザイナー、ユーザビリティ評価者、取扱説明制作者、等
- 専門家Ⅲ … 初級者向け 今年度トライアル予定
 - HCD の基礎知識を有する人(例:発注担当者、学生、新入社員、一般社員)

応募資格

- 人間中心設計専門家:人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての**実務経験が、5年以上**あること。

- 大学院在学中における実務活動は実務経験年数として含むことができます。

- 人間中心設計スペシャリスト:人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての**実務経験が、2年以上**あること。

- 大学院在学中における実務活動は実務経験年数として含むことができます

<共通>

- 人間中心設計専門家としてのコンピタンスを実証するための実践事例が3つ以上あること。

- 学歴については特に制限ありません。

どうやって審査するのか？ (How?)

•書類審査方式

- 実践プロジェクトの実績を書き込む(右図参照)

•審査基準

- HCD-Netが定めた一定の(実践)基準を満たしたことを認めるもの

•審査の流れ

- 審査員4名以上で、匿名化された「実践活動記述書」の内容を採点
- 担当する審査員の審査結果が分かれた場合には、HCD-Netの定める判定委員会において最終判定

審査書類の構成

- A 受験申込書
 - A-1 基本情報
 - A-2 学歴・職務経歴書
- B 実践活動記述書
 - B-1 プロジェクト経歴／業務履歴
 - B-2 プロジェクト記述書
 - **B-3 コンピタンス記述書**
★本年度改訂しました
- C 参考資料
 - C-1 教育履歴
 - C-2 論文・著作
 - C-3 作品、成果物

何を認定するのか？ (What?)

- ・実践プロジェクトにおけるコンピタンスの各能力の発揮を評価する。

人間中心設計専門家 コンピタンスマップ (2016年度版) 参照
★本年度改訂しました

後ほど説明します

応募から申請書類提出まで

ホームページから申請書一式を入手(ダウンロード) 11/25~

「受験申込書A-1, A-2」をホームページから提出(アップロード) ~12/26

受付係より
「応募受理通知書」、「受験番号」
「受験料振り込み口座」

受験料振込み(12,000円) ~1/15

申請書類一式郵送 & ホームページから提出(アップロード) ~1/25

合格発表から登録、更新

合格発表 3/31

合格者に通知

ホームページで受験番号を発表

専門家:登録料(18,000円)・資格維持費(12,000円)振込
スペシャリスト:登録料(11,000円)・資格維持費(9,000円3年分)
振込

「合格証書」発行

ホームページで氏名公開

HCD活動、更新ポイント取得

3年後

資格更新申請、更新料(5,000円)振込み

2015年度(第7期)

•第7期の審査結果

- 計51人の人間中心設計専門家が、54名の人間中心設計スペシャリストが認定された

- 現在、453名の認定専門家、159名の認定スペシャリスト(累計)

最後に:受験者の方へ一言 FY15からコメント
審査書類の記入に要する時間について

**週末1回頑張れば
何とかかなる...**

1月21(土)22(日)・・・25(水)

最後に: 受験者の方へ一言

審査書類の記入に要する時間について

本当だったよ
聴いて良かった
by FY15認定者

無理ですからあ

お勧めしません

- 2か月弱を有効に使ってね -

1月21(土)22(日)・・・25(水)

Part 2

認定専門家・スペシャリスト に求められるコンピタンス

- 人間中心設計専門家認定とコンピタンス
- HCD専門家コンピタンス体系と2016年度コンピタンスマップ
- コンピタンスの見直しについて
 - ✓ 従来のコンピタンスマップとの差異他
- 注意の必要なコンピタンス

人間中心設計専門家認定とコンピタンス

- HCD-Netが実施する、人間中心設計専門家の認定では、[HCDに関するコンピタンスの評価](#)によって認定を行っている。

コンピタンスとは？

- 専門業務の遂行に必要な、能力・技能・知識

HCD専門家

=

HCDに関する
コンピタンスを
適切に備えた人

HCD専門家コンピタンス体系

B. プロジェクトマネジメントコンピタンス

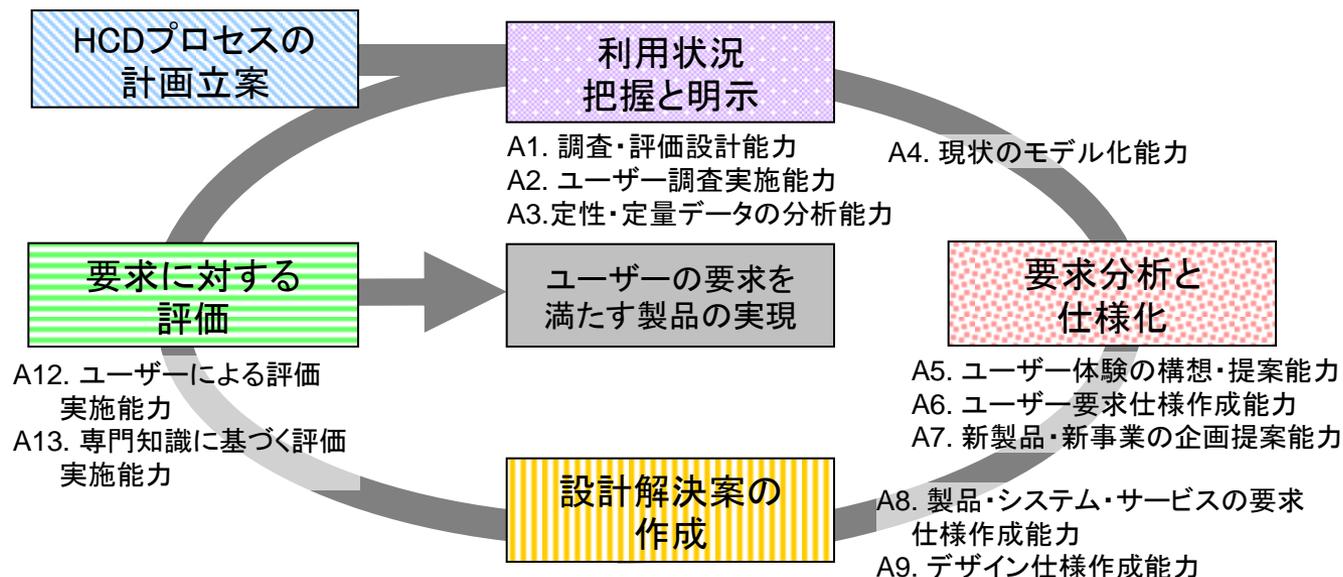
プロジェクトにおいてHCDプロセスを推進しマネジメントすることに関する能力

C. 導入推進コンピタンス

組織に対してHCDを適用・導入し普及・推進することに関する能力

A. 基本コンピタンス

プロジェクトにおいてHCDのプロセスの各活動を実施して適切な成果物を産出できる能力



L. テクニカルコミュニケーション能力

HCDのプロジェクト及び活動を円滑に実施するために必要となる基礎的なコミュニケーション能力

K. HCDに関する基礎知識

HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識

資格認定との対応

認定専門家
実務経験5年以上

認定スペシャリスト
実務経験2年以上

検定(予定)

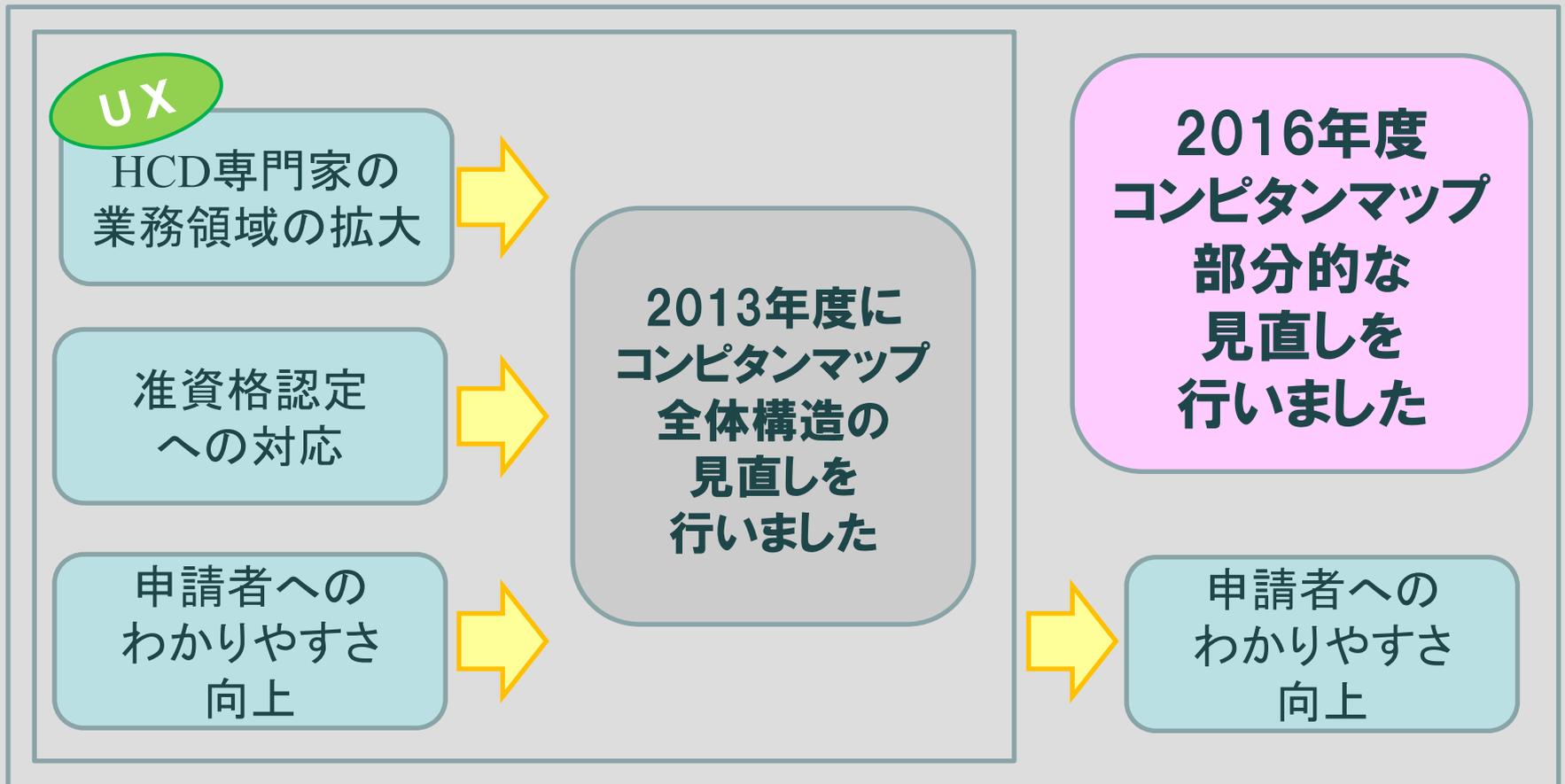
2016年度 コンピタンスマップ

実 務 能 力	A: HCD基本コンピタンス				B: プロジェクトマネジメントコンピタンス	C: 導入推進コンピタンス	L: テクニカルコミュニケーション能力
	A1. 調査・評価設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. 組織導入能力	L1. 文書作成能力
	A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力
	A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 新製品新事業の企画提案能力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力
	A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力	
知 識	HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識						

認定HCD 専門家 必須項目数	A群から 7項目 以上	3項目以上 (但しB群、C群からそれぞれ 1項目以上含むこと)	加点項目
認定HCD スペシャリスト 必須項目数	A群から 6項目 以上	-	加点項目

コンピタンスマップの2016年度見直しについて

- HCD専門家のコンピタンスは、毎年資格認定の前に精査・修正を実施してきたが、今回わかりやすさ向上の部分的改訂を実施。



2013年度改訂コンピタンスマップとの差異

- **名称変更** 2項目
- **説明記述見直し(定義の微修正を含む) A,B,C全項目**
 - 長期的ユーザビリティなど運用時の活動へ配慮
 - アクセシビリティの配慮を幅広いコンピタンスで考慮した、など
 - 解説の表現をわかりやすくなるよう全て見直し

実 務 能 力	A:HCD基本コンピタンス				B:プロジェクトマネジメントコンピタンス	C:導入推進コンピタンス	L:テクニカルコミュニケーション能力
	A1. 調査・評価設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. 組織導入能力	L1: 文書作成能力
	A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2: プレゼンテーション能力
	A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 新製品新事業の企画提案能力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力
	A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力	



皆さんに、最初にやってもらいたいこと

コンピタンス説明

文書: [competence_map2016.pdf](#)

を読んで

自実務との関係確認

記述された専門能力発揮したかなあ

皆さんに、次にやってもらいたいこと

B3記述例の 近しいIPjを読んで

「B-3 コンピタンス記述書」記述サンプルFormB3_sample2016.pdf

記述例1. 業務用機器開発 例2. Web制作 例3. 組織改革

自実務との関係確認

自分ないの苦勞 / 工夫はどうだっけなあ

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

- A1.調査設計能力とB1.プロジェクト企画能力の違い
 - A1:人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象にした適切な調査、評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力
 - 実施するプロジェクトについて、HCDの観点から課題を適切に掴み、プロジェクトのゴールや目的に応じて人間中心設計に関する適切な調査・評価の計画を立案し、それらの具体的な実施内容を設計できる(評価/調査仕様を作成できる)ことが期待される
 - B1:人間中心設計に関するプロジェクトを企画計画できる能力のこと
 - プロジェクトに必要な要件や前提事項を明確にし、プロジェクトのゴール、プロセス、アクティビティ、成果物、チーム構成などを適切に企画することが期待される。
- ✓ B1はHCDプロジェクト全体を企画
 - ✓ 適切な調査計画も含まれるが、あくまで全体の一部、調査の詳細はA1で記載する
- ✓ A1はHCDプロジェクトの一部である調査部分の立案

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

- A7. **新製品・新規事業の企画提案力**(以前:製品・事業の企画提案力)
 - ユーザーの理解に伴い、**今までにない製品・システム・サービス**、あるいは事業や研究テーマなどを**企画提案できる能力**のこと
 - 「ユーザーの利用状況の理解」や「ユーザーの本質的要求の抽出」「コンセプト検証」「ユーザー体験のデザイン(構想・提案)」などの**結果にもとづくことが前提**となる
など
- ✓ 誤解しやすいポイント
 - 画期的な企画案かもしれないが、既存の製品・システム・サービス、あるいは事業や研究テーマなどの改良の範疇だと、該当しない

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• A10. 情報構造の設計能力

- 製品やシステム、サービスの使用に際し、**ユーザーが情報を理解しやすく、またユーザー自身が情報を探しやすいような構造を、要求仕様に基づいて設計できる能力のこと**
 - ユーザーニーズとコンテンツの属性をもとに、適切な構造パターンを選択し分類方針を定め、コンテンツの内容やシステムの動作を類推できるような適切なラベリングを行う
 - ラベルやキーワードに一貫性を持たせるための命名規則を定義など
- ✓ 誤解しやすいポイント
 - ここでのユーザーは発注元ではなくて、エンドユーザーです
 - 膨大な情報を、システムが効率よく処理できるためのデータベース設計の話ではありません

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• A12. ユーザーによる評価実施能力

- ユーザーに評価対象(製品・システム・サービス)を提示することにより、**評価対象がユーザーに適しているかどうかを判断するテストを適切に実施**でき、プロジェクトの目的に合わせ結果を**適切に分析**できる能力

- 適用する評価指標や評価基準、実施方法、対象者(ユーザー)、評価メンバーの選定については、**各開発フェーズ、ユーザーの利用時(運用)において評価の目的や位置づけに応じて適切に判断・選択**することが期待される
- 評価結果は、**認知科学などの学術的な知見にもとづいて客観的に分析**し、次の活動に役立てることが期待される

など

✓ 誤解しやすいポイント

- 協力したユーザーの説得力あるコメント流用だけでは分析ではない
- 専門部署やコンサル会社に丸投げでは、専門性発揮と言えない

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• A13. 専門知識に基づく評価実施能力

- 人間中心設計および関連する**専門知識を用いて**、製品・システム・サービスのユーザビリティ、ユーザーエクスペリエンス、ユーザーインタフェースなどの**良し悪しの判断・指摘ができる**能力のこと

- 実施にあたっては、認知科学などにおける**学術的な理論や法則**、および**ユーザビリティの経験則**などに基づいて、**客観的に評価を記述**できることが期待される

など

✓ 誤解しやすいポイント

- 単に衆知を集めて合意しただけでは、**専門知識に基づいた客観的な評価ではない**
- 専門部署やコンサル会社に丸投げでは、**専門性発揮**と言えない

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• C1.組織導入能力（以前:HCD適用・導入設計力）

- 人間中心設計プロセスの組織への導入やそれを実践する体制に関する企画・計画が立案できる能力のこと

- マネジメントの立場から、組織のポリシー(理念・戦略・方針)に沿ったユーザビリティやユーザエクスペリエンスの目標を設定し、組織や部門に対して、人間中心設計プロセスの全部あるいは一部を導入することを計画および立案することが期待される

など

✓ 誤解しやすいポイント

- 個別のプロジェクトへの導入については対象外
- 個人的あるいはサークル的な取り組みだけでは、この能力には当たらない。ただし、社内勉強会などの組織内での取り組みは、「C3. 人材育成能力」で記述してもよい。

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• C2. 教育プログラム開発力

– 人間中心設計に関する教育プログラムを開発できる能力のこと

- 組織や部門への人間中心設計の導入を推進するために、人間中心設計プロセス、または人間中心設計に関する手技法などに関する教育プログラムを開発することが期待される

など

✓ 誤解しやすいポイント

- 個別のプロジェクトへの導入については対象外

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• C3. 人材育成能力

- 人間中心設計に関する教育や訓練を行い、**組織・メンバー・関係者の人間中心設計に関するスキルを向上できる能力のこと**
 - 適切な**人材育成計画を立案**し、OJTによる訓練、業務内外の研修、講義、ワークショップ、対話など、人間中心設計を学ぶ機会を作ることや、講師やファシリテーターを担当することにより、対象者の人間中心設計に関するスキルを向上することが期待される
- ✓ 誤解しやすいポイント
 - 単に、話題の参考書を紹介した、たまたま開催を知った外部セミナーに行かせたなど、場当たりのアレンジだけでは、専門性を発揮したとは言えない。人間中心設計の専門性育成計画の元、対象者のレベルに合わせたアレンジが必要である。

注意の必要なコンピタンス

コンピタンスマップ説明の抜粋で説明
コンピタンスマップ読んで理解深めてね

• C4. 手法・方法論開発力

- 人間中心設計に関する手技法や、方法論を開発できる能力のこと
 - 人間中心設計の実践を支援する開発プロセスや開発方法論あるいは手技法、人間中心設計実践に必要なコンピタンスに関わる研究/開発し、**独自の整理・体系化・一般化にもとづき新たな手法化、方法論化**を行うこと
 - 独自の研究に留まらず組織内・外部への積極的な公表やドキュメント化など、**成果を外部化**することが期待される
- ✓ 誤解しやすいポイント
 - たとえ、手法・方法に独自の工夫をしていたとしても、事例そのものの公表やドキュメント化では、手法化、方法論化とはいえない

注意の必要なコンピタンス

コンピタンス説明の抜粋を利用
説明を全部読んで、さらに理解深めてね

- L: テクニカルコミュニケーション能力

- L1: 文書作成能力
- L2: コミュニケーション能力
- L3: ファシリテーション能力

- HCD専門家としての専門業務をより円滑かつ効果的に実施する基礎能力。
- ここでいう「テクニカルコミュニケーション」は、専門業務に関わるステークホルダー間のコミュニケーションに必要な能力を意味する。
- いわゆるテクニカルコミュニケーション技術を、専門業務で活用する能力ととらえてもらえればよい。

申請にむけて

- 申請される方は、**必ずコンピタンスの説明を読んだ上で、「コンピタンス記述書」**を作成するようにしてください。
- 審査員は、あくまで定義されたコンピタンスの意味に基づいて審査を行います。
- そのため、コンピタンスの内容を誤解して、申請書を作成していた場合には、評価はされませんのでご注意ください。
- 1つのコンピタンスについて、**実務経験の能力**を十分読み取れるよう、しっかり記述することにご留意ください。

倫理規定遵守で受験者保護と厳密な審査を徹底

- 2015年度に倫理規定を規定
 - ✓ HCD資格認定センターメンバー、事務局は遵守して活動
 - ✓ 遵守する旨を承諾した人のみを審査員に任命

<目的>

認定試験において、受験者を保護するとともに審査・判定の厳密性、正確性、再現性を確保する

<審査員の行動指針概要> ※倫理指針を一読ください

- ・ 受験者の人権を尊重する
- ・ 個人情報など知り得た特定情報は開示しない
- ・ 審査基準を遵守し、専門性、正確性、公平性、再現性に留意する

など

<http://www.hcdnet.org/certified/about/post_1.html>

Part 3

申請書類の書き方

- 「実践活動記述書」とは
- コンピタンス記述の流れ
- コンピタンス記述の詳細(良い例／悪い例)
- 合否判定

コンピタンス記述の流れ 2-1

B-2 プロジェクト記述書

	P1	P2	P3	P4	P5
活動・プロジェクト名					
背景					
対象					
課題					
プロジェクト全体概要					
目的・ゴール					
開始年月					
終了年月					
所属機関名(実施時)					
所属部署名(実施時)					
プロジェクト体制					
Pjとしての成果・結果					
参考資料・添付資料					

担当範囲に関わらず
プロジェクト全体概要を
記述することで
何をやったかを思い出そう

プロジェクト全体としての
成果を記述
申請者自身の成果に
こだわらなくて良い

B-3で詳細を思い出す前の準備作業

コンピタンス記述の流れ 2-2

B-2 プロジェクト記述書

事務局記載欄:申請者番号				P1	P2
活動歴を 証明できる方	氏名				
	所属				
	電話番号				
	emailアドレス				
プロジェクト 実践 フェーズの 目的	事前調査(市場調査、フィージビリティ)				
	商品開発(システム、サービス、コンテンツ)	企画・要件			
		設計・デザイン・開発			
		ユーザー検証			
		運用・サポート			
	HCDに関するコンサルティング	商品開発(システム、サービス、コンテンツなど)			
		プロセス開発(組織、運用、ガイドラインなど)			
		教育・啓蒙			
	HCDに関する研究	人間特性			
		設計/評価手法、ツール			
	UI提案、先行技術開発				
その他	自由記載				
あなたの 務の 担当した 業	申請者の役割	役職/役割名(実施時)			
	コンサルティング				
	研究開発				
	調査・企画				
	デザイン・設計				
	評価・品質管理				
	教育・啓蒙				
マネジメント					

プロジェクト全体の特徴を示すため
該当を選んでください

この部分は
プロジェクトにおいて
申請者自身が
主体的に担当した役割
を選んでください

プロジェクトの特徴と自分の役割を整理

コンピタンス記述の流れ 3-1

- B3にマジで記述するプロジェクトを3～5選ぶ
 - コンピタンスを幅広く含むようにプロジェクトを選ぶ
 - 1つのプロジェクトで全コンピタンスをカバーする必要はない
 - 1つのコンピタンスについて、2つ以上のプロジェクトで記述されていたほうが審査員が再現性を判断しやすい

BARRIER BREAKER	活動・プロジェクト名	A:HCD基本コンピタンス					B:プロジェクトマネジメントコンピタンス	C:導入推進コンピタンス	L:テクニカルコミュニケーション能力
		PA	PB	PC	PD	PE			
プロジェクト全体概要	背景	調査評価担当							
	対象								
	課題								
	目的・ゴール								
	実施年月 / 担当者 (所属部署名(実地時) / 所属部署名(実地時))								
プロジェクト体制									
内としての成果・結果									
実施担当: 担当課長									

A:HCD基本コンピタンス				B:プロジェクトマネジメントコンピタンス	C:導入推進コンピタンス	L:テクニカルコミュニケーション能力
A1. 調査・評価設計能力 <input checked="" type="checkbox"/>	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力 <input checked="" type="checkbox"/>	B1. プロジェクト企画能力	C1. 組織導入能力	L1. 文書作成能力
A2. ユーザー調査実施能力 <input checked="" type="checkbox"/>	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力 <input checked="" type="checkbox"/>	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/>
A3. 定性・定量データ分析能力 <input checked="" type="checkbox"/>	A7. 新製品・新事業の企画提案能力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力 <input checked="" type="checkbox"/>	L3. ファシリテーション能力
A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力	

B-2 でプロジェクトの特徴と自分の役割を振り返りながら
 コンピタンスの発揮できた状況を見積もって選ぶ
 例: B-1の中から記述可能なプロジェクトをいくつか選び、コンピタンスに対応させる。どのプロジェクトを選ぶとコンピタンスがカバーできそうかを見積もる。

コンピタンス記述の流れ 3-2

- B3にマジで記述するプロジェクトを3～5選ぶ
 - なるべく公開の制約が少ないプロジェクトを選ぶ
 - 記述が具体的なほうが審査員が実証を判断しやすい
 - 業務上の守秘義務に配慮する
 - 対象システムやクライアントなどに言及できない場合は、利用したHCDの技術・知識、HCD業務を進める上での工夫などに焦点を当てて記述する

この観点も忘れずに！

コンピタンス記述の流れ 4

B-3 コンピタンス記述書

受験番号:		*各項目500文字以内を目安に記述ください。			文字数
コンピタンス	定義	記入のポイント	P1 ↓ 記入欄	0	
A. HCD基本コンピタンス					
A1. 調査・評価設計能力	人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象とした適切な調査、評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力のこと	(1) 課題/目的を明示してください(課題を的確につかんでいることがポイント)。	P1 ↓ 記入欄	0	1セルあたり500文字以内を目安に簡潔に記述
	*実施するプロジェクトについて、人間中心設計の観点から課題を適切に掴み、プロジェクトのゴールや目的に応じて人間中心設計に関する適切な調査・評価の計画を立案し、それらの具体的な実施内容を設計できる(評価/調査仕様を作成できる)ことが期待される	(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。		0	
	*プロジェクトの対象領域に関わる文化的な背景や知識などの情報を把握し、調査・評価すべき事項を判断・選択した上で、プロジェクトの進行に合わせて人間中心設計に関わる調査・評価活動を計画することが求められる。また、個別の調査・評価活動の設計のみならず、プロジェクト全体で必要となる	(3) 申請者のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果/効果を示してください。		0	
	ユーザーの利用状況	(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。		0	

課題/目的を的確に記述

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

③活動や成果への貢献の証を記述

コンピタンス発揮を記入のポイントにしたがいアピール

コンピタンス記述の流れ 4

	P1 ↓記入欄	495	P2 ↓記入欄	644
B	<p>申請者は新規開発の業務用機器における、UIデザインリーダーとしてプロジェクトに参加した。</p> <p>また、申請者は、この中でUIデザインの開発を自部門（UIデザイン部門）のプロジェクトとして企画・運営した。</p> <p>■プロジェクト目的： HCDプロセスを導入し、新しい顧客層、新しいカテゴリの製品にふさわしい操作・タッチパネルGUIを開発すること。</p> <p>■チーム構成： 情報アーキテクト、グラフィックデザイナー（2名）、ユーザビリティエンジニア、プロジェクトオーナー（申請者の上司） 開発プロジェクトメンバーとして、プロジェクトマネージャー、ハードウェア設計担当、要求定義担当、ソフトウェア設計担当、商品企画担当</p>	306	<p>スマートフォン（以下スマホ）向けに、当社ECサイトの根本的なリニューアルを行った。申請者は、このリニューアルプロジェクトの、UIデザインのチームリーダーを務めた。（※要は申請書記を参照のこと）</p> <p>【プロジェクトの目的】 プロジェクトの必要条件・前提条件をうけて、目的を次のように定めた。</p> <p>【目的1】 スマホ向けのリニューアルを完遂する。 【目的2】 スマホ向けウェブサイトか、スマホの「ネイティブアプリ」にするか、方針を定める。 【目的3】 スマホにおける、ユーザー像と、ユーザー体験の全体像、ユーザーの要求事項を、正しく洗い出し、事業責任者とチームメンバーで共有する。 【目的4】 実現すべきユーザー体験を、具体的なプロダクトとして落とし込む。 【目的5】 リニューアルの結果として、当ECサイトの総合優位性を確保し、売上を伸ばす。 【目的6】 HCDプロセスが継続されるよう、次のプロジェクトに引き継ぐ。</p> <p>【チーム構成・申請者の役割】 当プロジェクトにおけるチーム構成は、事業責任者（担当役員）のもと、UIデザインチーム（7名）、開発チーム（12名）で定められた。 UIデザインチームは、名称は「UIデザイン」とあるが、実質的には、プロダクトオーナーの役割も兼務している。 申請者は、UIデザインのチームリーダーを務めた。</p>	560
	<p>申請者は、業務用機器操作・タッチパネルUIの開発において、HCDプロセス（S09241-210）を導入・実施する計画を主体的に立案。</p> <p>新しい顧客層、新しいカテゴリの製品のため、上記の以下を重視した計画を、プロジェクトオーナーに提言し同意を得た。</p> <p>■「利用の状況の把握と明示」の活動： 新カテゴリのターゲットと考えられる中規模オフィスユーザーの現状業務ワークフローを把握する調査を企画し、手取りと主な市場である海外の開発営業部門の協力合意を得た。</p> <p>■「ユーザーと組織の要求事項の明示」の活動： 商品企画部門作成の顧客情報・ペルソナ情報を元に現状をジャーニーマップを用いたモデル化実施。このモデルを用いてコンセプトやアイデア出しを行い、理想のアクティビティシナリオを描き要求事項を明示する方法をとった。 本来ならば商品企画部門もコンセプト作成のワークショップへの参加が望ましい。しかし、商品企画部門の参加は日程的に難しいと予想されたため、事前に申請者が商品企画部門の予定に合わせて顧客情報・ペルソナ情報について始めていく活動を先行することで意図を合わせる方法をとった。</p>	488	<p>HCDプロジェクト企画としての、申請者の工夫</p> <p>申請者は、課題を解決するためには、人間中心設計によるユーザー理解と、全体を俯瞰したユーザー体験の設計が必要であると考え、本プロジェクトにおいて、以下の施策を計画した。</p> <p>【施策1】 スマホからの、ユーザーの「利用の状況」を特定する。とくにスマホは、パソコンからと異なり、「日常生活と密接につながった」利用の状況であるので、サイト内だけの体験でなく、その背景にある生活の価値観まで洗い出す。 【施策2】 ECサイトにおける、スマホサイトとネイティブアプリの「利用の状況」の差を特定する。 【施策3】 特定した「利用の状況」から、ユーザーの要求と、実現すべきユーザー体験の全体像を定義する。 【施策4】 ユーザー体験の全体像から、設計策として、リニューアル後のウェブサイトの具体的な構造、画面、機能へと落とし込む。 【施策5】 構造、画面、機能が、意図したユーザーの体験になっているかどうか、公開前に評価する。 【施策6】 本プロジェクトに、事業責任者とチームメンバーを積極的に巻き込み、ユーザー像への共感を厚くすることで、チーム運営を良くする。そして、ユーザーの気持ちに寄り添った開発が行われるようにし、総合優位性を確保する。 【施策7】 プロジェクトの終結後、引き継ぎ、ウェブサイトを改善することができるよう、次のプロジェクトへ引き継ぐ。 【施策8】 プロジェクトの終結後、引き継ぎ、ウェブサイトを改善することができるよう、次のプロジェクトへ引き継ぐ。</p>	644
	<p>■アウトプット： プロジェクト開始前に「プロジェクト計画書」を作成した。ここには、HCDプロセスの導入、導入対象、手法、チームメンバーの役割、リスクとその回避策などについて</p>	269	<p>【アウトプット】 申請者は、上記の必要条件・前提条件、目的、施策をまとめた「プロジェクト計画書」を作成した。また、「プロジェクト計画書」には、リニューアル後のユーザー体験を定めること</p>	314

1セルあたり
500文字以内
を目安に
簡潔に記述

コンピタンス記述の流れ 5

B-3 コンピタンス記述書

ひたすら記述する
 ⇒ 専門家認定の必須数
 A:17 ⇒ 7以上
 B:3/C:4 ⇒ 3以上
 (L:3 ⇒ 加点)

実 務 能 力	A:HCD基本コンピタンス				B:プロジェクトマネジメントコンピタンス	C:導入推進コンピタンス	L:テクニカルコミュニケーション能力
	A1. 調査・評価設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. 組織導入能力	L1. 文書作成能力
	A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力
	A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 新製品新事業の企画提案能力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力
	A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力	

参考:コンピタンスの審査方法について

2016 年度人間中心設計(HCD)専門家資格認定制度
申請書類の書き方

application_form_guideline2016.pdf
P9より

この各セルの内容全体を見て、該当コンピタンスが発揮されたかどうかの判断をします。
審査では次のような視点でコンピタンスの発揮を読み取ります。

- 各コンピタンスに応じた内容が記述されており、コンピタンスの発揮が実証されているか。
- コンピタンス発揮の根拠が読み取れるか。(活動のアウトプットは何か、成果／効果はどうだったのかを B,C の申請書類全体から判断します)
- 各プロジェクトで課題の抽出・解決が適切になされているか、複数のプロジェクトで合理的に活動しているかなど。

記述したプロジェクト(P1～P5)のうち、一番高い得点のついたものがそのコンピタンスの得点となります。1つのプロジェクトで全てのコンピタンスをカバーする必要はありません。ユーザー調査に力点をおいたプロジェクト、プロジェクト運営に力点をおいたプロジェクトなど、申請者の役割が異なるいくつかのプロジェクトの記述あわせて、できるだけ多くのコンピタンスを記述してください。

参考：一番高い得点を選ぶ意図



未記入 0	未記入 0	記入 9	未記入 0
----------	----------	---------	----------



偶然できた？
 単なる手抜き？
 ⇒判断困難
 他書類を参照して判断



未記入 0	記入 1	記入 4	記入 9
----------	---------	---------	---------



苦勞して
 成長したね！
 ⇒判断可能

参考：一番高い得点を選ぶ意図



未記入 0	未記入 0	記入 9	未記入 0
----------	----------	---------	----------



偶然できた？
 単なる手抜き？

 ⇒判断困難
 他書類を参照して判断



未記入 0	記入 9	未記入 0	記入 9
----------	---------	----------	---------



毎回ちゃんと
 できてる！

 ⇒判断可能

コンピタンス記述の詳細

B-3 コンピタンス記述書

注:コンピタンスによって記入のポイントの構成違うので注意

コンピタンス	定義	記入のポイント	PI	記入欄	0
A. HCD基本コンピタンス					
A1. 調査・評価設計能力	人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象にした適切な調査・評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力のこと	(1) 課題/目的を明示してください(課題を的確につかんでいることがポイント)。			0
	*実施するプロジェクトについて、人間中心設計の観点から課題を適切に読み、プロジェクトのゴールや目的に応じて人間中心設計に関する適切な調査・評価の計画を立案し、それらの具体的な実施内容を設計できる(評価/調査仕様を作成できる)ことが期待される	(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。			
	*プロジェクトの対象領域に関わる文化的な背景や知能などの情報を把握し、調査・評価すべき事項を判断・選択した上で、プロジェクトの進行に合わせて人間中心設計に関わる調査・評価活動を計画することが求められる。また、個別の調査・評価活動の設計のみならず、プロジェクト全体で必要となる調査・評価活動の実施計画を作成することが期待される	(3) 申請書のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果/効果を示してください。			
	*製品・システム・サービスの開発段階だけでなく、実際のユーザーの利用時の体験(ユーザーエクスペリエンス)に関わる調査・評価も対象となる	(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。			

①課題/目的を的確に記述

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

③活動や成果への貢献の証を記述

特に、課題/目的の記載が重要。
工夫や成果が妥当かを判断する起点になるため。

①課題/目的を的確に記述とは

[コンピタンス]

悪い例

A1.調査設計能力 における(1)の例

[所見]

- 適切な課題把握ができてるか判断できない
 - ・ 調査課題/目的の記述がない
 - ・ 調査結果を何のために使うかの記述がない

[記述例]

・新しいデジタル家電機器の複数の実現案の比較評価を行った。評価はインタビュー調査によって実施した。評価にあたって、日ごろ使っている機器の影響が予想できたので、日ごろ使っている機器に応じた属性群を定義し、調査を実施した。

やったことしか書いてない

①課題/目的を的確に記述とは

良い例

[コンピタンス]

A1.調査設計能力 における(1)の例

[所見]

- 適切な課題把握ができてるか判断可能
 - ・ 調査課題/目的の記述あり
 - ・ 調査結果を何のために使うのか記述あり

[記述例]

- ・ 新規ビジネス領域の開拓が会社としての**課題**である。
- ・ 新規ビジネス開拓を狙った、新しいデジタル家電機器として複数のコンセプトが提案されている。その中から、今後のユーザーの生活の中に浸透する可能性のあるコンセプトがあるか調べるのが**目的**である。
- ・ **調査結果を元に**、新規ビジネスを立ち上げるかどうかを**判断する**。また、提案されている複数コンセプトのうち、どの案をベースに進めていくかも判断する。

どうしてこの活動をするのか。
知りたいことは何なのか。

調査結果をどう使うのか

①課題/目的を的確に記述とは

悪い例

[コンピタンス]

A12.ユーザーによる評価実施能力 における(1)の例

[所見]

- 適切な課題把握ができてるか判断できない
 - ・ 調査目的の記述がない
 - ・ 調査結果を何のために使うかの記述がない

[記述例]

- ・ 開発者が作成したプロトタイプの評価を実施した
- ・ 代表タスクに対して、間違いなく操作した場合だけでなく、よくあるシステムエラーが発生した場合についての2つのケースを対象とした。

やったことしか書いてない

①課題/目的を的確に記述とは

良い例

[コンピタンス]

A12.ユーザーによる評価実施能力 における(1)の例

[所見]

- 適切な課題把握ができてるか判断可能
 - ・ 調査課題/目的の記述あり
 - ・ 調査結果を何のために使うのか記述あり

どうしてこの活動をするのか。
知りたいことは何なのか。

[記述例]

- ・新規開発機能のため、どのような仕様がユーザーに受け容れられるかの過去知見がなかった。
- ・基本的な方針を決めるため、代表タスクに対して全く発想の異なる3つの案をペーパープロトで作成し、ユーザーに伝わる度合いの違いを評価した。
- ・評価結果から選んだ方針を、基本方針として採用する。

調査結果をどう使うのか

コンピタンス記述の詳細

B-3 コンピタンス記述書

注:コンピタンスによって記入のポイントの構成違うので注意

コンピタンス	定義	記入のポイント	PI	記入欄	0
A. HCD基本コンピタンス					
A1. 調査・評価設計能力	人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象にした適切な調査・評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力のこと	(1) 課題/目的を明示してください(課題を明確につかんでいることがポイント)。			
	*実施するプロジェクトについて、人間中心設計の観点から課題を適切に読み、プロジェクトのゴールや目的に応じて人間中心設計に関する適切な調査・評価の計画を立案し、それらの具体的な実施内容を設計できる(評価/調査仕様を作成できる)ことが期待される	(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。			
	*プロジェクトの対象領域に関わる文化的な背景や知能などの情報を把握し、調査・評価すべき事項を判断・選択した上で、プロジェクトの進行に合わせて人間中心設計に関わる調査・評価活動を計画することが求められる。また、個別の調査・評価活動の設計のみならず、プロジェクト全体で必要となる調査・評価活動の実施計画を作成することが期待される	(3) 申請書のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果/効果を示してください。			
	*製品・システム・サービスの開発段階だけでなく、実際のユーザーの利用時の体験(ユーザーエクスペリエンス)に関わる調査・評価も対象となる	(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。			0

①課題/目的を的確に記述

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

③活動や成果への貢献の証を記述

主体的・具体的に
課題や目的に沿った工夫を記述

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

悪い例

[コンピタンス]

A12.ユーザーによる評価実施能力 の(2)の例

[所見]

- 立場の記述が一般的すぎて、信頼性が下がる
 - ・リードする立場か、従っている立場か不明確
 - ・どう主体性を発揮したかの記述がない
 - ・専門性を発揮した工夫の記述がない

申請者の立場は何となくわかる

[記述例]

- ・評価実施は申請者が一人で担当した
- ・実施は社外の調査会社にテストを依頼しておこなったため、依頼先とテスト計画策定に向け調整をおこなった。

A12コンピタンスにおいて専門性を発揮できているのかがわからない。

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

良い例

[コンピタンス]

A12.ユーザーによる評価実施能力 における(2)の例

[所見]

- 立場の記述からコンピタンスの発揮具合が判断できる
 - ・リードする立場か、従っている立場か明確
 - ・どう主体性を発揮したかの記述あり
 - ・専門性を発揮した工夫の記述あり

申請者の立場は何となくわかる

[記述例]

- ・評価実施は申請者が一人で担当した
- ・実施は社外の調査会社にテストを依頼しておこなったため、依頼先とテスト計画策定に向け調整をおこなった。
- ・申請者が社内で実施した前モデルのテスト計画や結果を依頼先に示すことで、依頼先との調整を効率的に進めることができた。

コンピタンスを発揮した工夫が読み取れる。

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか 悪い例

[コンピタンス]

A13. 専門知識に基づく評価実施能力 の(2)の例

[所見]

- 立場の記述が一般的すぎて、信頼性が下がる
 - ・リードする立場か、従っている立場か不明確
 - ・どう主体性を発揮したかの記述がない
 - ・専門性を発揮した工夫の記述がない

申請者の立場がわからない。

[記述例]

- ・エキスパートレビューを担当した3名の評価者の一人である。
- ・社内で共通的に用いられている評価尺度を利用し、他の評価者との効率的な結果共有を実現することができた。

申請者の工夫がわからない。

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか 良い例

[コンピタンス]

A13. 専門知識に基づく評価実施能力 における(2)の例

[所見]

- 立場の記述記述からコンピタンスの発揮具合が判断できる
 - ・リードする立場か、従っている立場か明確
 - ・どう主体性を発揮したかの記述あり
 - ・専門性を発揮した工夫の記述あり

立場を明確にする

[記述例]

- ・エキスパートレビューを担当した**3名の中のリーダー**として評価を実施した。
- ・**依頼元との事前打合せを元に**、社内で共通的に用いられている評価尺度を手直した**尺度体系を作成し**、他の評価者に示した。
- ・他の評価者に馴染みある尺度なのでの効率的な結果共有を実現することができた。
- ・評価者間の見解が相違した部分は、**過去に申請者が担当したユーザー評価結果を引用**することで、効果的な意見調整ができた。

コンピタンスを発揮した工夫の記述がある

コンピタンス記述の詳細

B-3 コンピタンス記述書

注:コンピタンスによって記入のポイントの構成違うので注意

コンピタンス	定義	記入のポイント	PI	記入欄	0
A. HCD基本コンピタンス					
A1. 調査・評価設計能力	人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象にした適切な調査・評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力のこと	(1) 課題/目的を明示してください(課題を明確につかんでいることがポイント)。			
	*実施するプロジェクトについて、人間中心設計の観点から課題を適切に読み、プロジェクトのゴールや目的に応じて人間中心設計に関する適切な調査・評価の計画を立案し、それらの具体的な実施内容を設計できる(評価/調査仕様を作成できる)ことが期待される	(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。			
	*プロジェクトの対象領域に関わる文化的な背景や知識などの情報を把握し、調査・評価すべき事項を判断・選択した上で、プロジェクトの進行に合わせて人間中心設計に関わる調査・評価活動を計画することが求められる。また、個別の調査・評価活動の設計のみならず、プロジェクト全体で必要となる調査・評価活動の実施計画を作成することが期待される	(3) 申請書のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果/効果を示してください。			
	*製品・システム・サービスの開発段階だけでなく、実際のユーザーの利用時の体験(ユーザーエクスペリエンス)に関わる調査・評価も対象となる	(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。			0

①課題/目的を的確に記述

②どのような工夫を主体的に実施し解決したか

③活動や成果への貢献の証を記述

課題/目的の達成に導くための具体的な成果や貢献などを具体的に記述

③活動や成果への貢献の証を記述

悪い例

[コンピタンス]

A1.調査設計能力 における(3)の例

[所見]

- 成果や貢献の具体的な記述がないと、信頼性が下がる
 - ・ 成果物の列挙しかない(具体的ではあるが)
 - ・ コンピタンスの定義に書いてある成果物を引用しただけ
 - ・ 成果物の質や専門性を発揮による効果の記述がない

成果物の記述しかない。

[記述例]

- ・「調査実施計画書」:内容:目的、対象者、調査内容、スケジュールなど15頁
- ・マネジメント向けプレゼンで概要を説明し、合意を得た後、関係者と詳細共有のため、ワード文書を作成した。

専門性発揮の効果がよくわからない。

③活動や成果への貢献の証を記述

良い例

[コンピタンス]

A1.調査設計能力 における(3)の例

[所見]

- 成果や具体的な貢献が記載され、コンピタンス発揮具合がわかる
 - ・ 成果物の貢献内容が具体的にわかる
 - ・ 成果物の質や専門性を発揮による効果の記述がある

[記述例]

- ・「調査実施計画書」:内容:目的、対象者、調査内容、スケジュールなど15頁
- ・前例のない調査だったためマネジメントの合意が必須だった。必要性や効果などを追加したマネジメント向けサマ리를申請者が作成し、合意獲得できた。
- ・今回作成した調査実施計画書の構成がわかりやすいと評判になり、他のプロジェクトのテンプレートとして流用されるようになった。

専門性発揮の具体的効果の記述がある。

その他、記述上の注意

- コピペが多くて記述が信頼できない
 - 同じコンピタンスでも、プロジェクトが違えば立場や工夫が変わるはず
 - 他のプロジェクトのコピペ？記述では、専門性発揮が判断できない

[記述例]

- 新規ビジネス領域の開拓が会社としての課題である。
- 新規ビジネス開拓を狙った、新しい**デジタル家電機器**として複数のコンセプトが提案されている。その中から、今後のユーザーの生活の中に浸透する可能性のあるコンセプトがあるか調べるのが目的である。

....

[コンピタンス]

A1.調査設計能力 における(1)の例

対象の名前が変わってるだけ。

[記述例]

- 新規ビジネス領域の開拓が会社としての課題である。
- 新規ビジネス開拓を狙った、新しい**ネットサービス**として複数のコンセプトが提案されている。その中から、今後のユーザーの生活の中に浸透する可能性のあるコンセプトがあるか調べるのが目的である。

....



補足:「**B-3 コンピタンス記述書**」において

★**専門家の場合**★

“B プロジェクトマネジメントコンピタンス”を先に書く理由

• **コンピタンスの対応関係**

- 最初にB1を記載することで、「B-2プロジェクト記述書」に記載したプロジェクト全体概要に対応した申請者自身の役割を思い返す効果に期待
- B1の記載後にA1を記載することで、A1の簡潔な記述ができること期待

B1.プロジェクト企画能力
(プロジェクトの企画について)

A1.調査設計能力
(プロジェクト内の各種調査・評価の計画・設計について)

A12.ユーザーによる評価実施能力
(ユーザーによる評価の実施について)

A13.専門知識に基づく評価実施能力
(専門家知識に基づく評価の実施について)

補足:コンピタンスの対応関係 ①

• A1.調査設計能力

- 人間中心設計に関する課題、目標に対して主にユーザーを対象にした適切な調査、評価の計画が各フェーズにおいて立案できる能力
- ✓ A1はHCDプロジェクトの一部である調査部分の立案

• B1.プロジェクト企画能力

- 人間中心設計に関するプロジェクトを企画計画できる能力のこと
- ✓ B1はHCDプロジェクト全体を企画
 - ✓ 適切な調査計画も含まれるが、あくまで全体の一部、調査の詳細はA1で記載
 - ✓ B1.プロジェクト企画能力 で記述した企画の実施に関わるコンピタンスは 他にもあり得る。対応が取れた記述でないと信頼性を下げる

B1.プロジェクト企画能力

A1.調査設計能力

A12.ユーザーによる評価実施能力

A13.専門知識に基づく評価実施能力

補足: コンピタンスの対応関係 ②

- A1.調査設計能力と、A12&A13
 - 密接にかかわるので対応が取れた記述になっていないと信頼性下げる
 - ✓ A1で計画した目的や課題とA12やA13の目的や課題が整合した記述になっていること
 - ✓ 計画した複数の評価活動全部の記載は不要
 - ✓ 対象コンピタンスが最も発揮できた評価活動に限定してOK
 - ✓ 例えば、調査設計で計画したユーザーによる評価活動が複数あった場合、対象コンピタンスが最も発揮できた評価活動を選択して記述するとよい

B1.プロジェクト企画能力

A1.調査設計能力

A12.ユーザーによる評価実施能力

A13.専門知識に基づく評価実施能力

合否判定

- 主に「B-3 コンピタンス記述書」に対する審査結果より

1. 必須項目の数が足りているか

HCD専門家

- ◆Aのコンピタンスのうち、基準得点に達した項目が**7項目以上**
- ◆Bのコンピタンスのうち、基準得点に達した項目が**1項目以上**
- ◆Cのコンピタンスのうち、基準得点に達した項目が**1項目以上**
- ◆B、Cのコンピタンスあわせて、基準得点に達した項目が**3項目以上**

HCDスペシャリスト

- ◆Aのコンピタンスのうち、基準得点に達した項目が**6項目以上**

注：基準得点は非公開です

2. 総合得点が一定レベルに達しているか

- 受験者あたり審査員4名以上で採点しますが、審査結果が分かれた場合には、HCD-Netの定める委員会において最終判定します。

Part 4

まとめ

- まとめ
- Q&A

まとめ

- 人間中心設計（HCD）活動に関する専門家として業務を実践し、より魅力的なユーザー体験のデザイン、およびユーザビリティに関する品質向上と技術の普及に貢献しているHCD専門家とHCDスペシャリストを認定します。
- 人間中心設計専門家コンピタンスマップ（2016年度版）に基づいて審査します。
- 提出された書類だけでコンピタンスの発揮を判断します。

ご自身の活動を
コンピタンスの視点で捉え直して
実証が伝わるように記述してください。

お問い合わせ先

•ご不明点があれば、下記までお問い合わせ下さい。

•人間中心設計推進機構

人間中心設計(HCD)専門資格認定試験 受験係

•住所: 〒222-0033

神奈川県横浜市港北区新横浜3-7-18 第2上野ビル
エキスパートオフィス新横浜 6階(受付)

•申請書受付／問い合わせ専用Email: nintei@hcdnet.org

※電話でのお問合せには対応できません

Q&A

[×モ]